

事務事業	93	避難所機能の充実					
章	3	安全で快適な、みどりのあるまち					
大項目	02	災害に強い安全なまちづくり					
施策	02	地域ぐるみの防災体制づくり					
事業内容							
目的	災害時、地域の救援拠点となる避難所において、被災区民の不安感・不便感を軽減するとともに、平常時においても、区民が安心感を持って住み続けられるよう、機能の充実を図ります。 大震災発生時における避難所(学校)や広域避難場所(公園等)でのトイレ対策として、下水道を利用する災害用トイレを設置することで、多数の避難者が繰り返しトイレを使用することができます。						
対象・手段	第一次避難所に指定した区立小・中学校、都立高校、私立学校及び第二次避難所に指定したことぶき館・児童館等の福祉施設・区立幼稚園などの施設に、避難所運営管理協議会の設置及び避難所運営管理マニュアルの策定を行い、また、災害用トイレ、受水槽の改良、ろ水機配備、発災時対応食糧、応急資機材、生活必需品の配備を行うことで、施設面からの整備を進めます。						
成果(事業が意図する成果)							
避難所運営管理協議会の定例開催や、下水道利用型災害用トイレの整備を進めることで、運営、設備の両面で避難所機能が充実し、区民が安心して利用できる避難所環境が整います。							
事業成果指標							
指標名	定義	目標水準					
避難所運営協議会の定例開催	定例開催した協議会数/全協議会数	( 毎 ) 年度に	( 全箇所 ) の水準達成				
災害用トイレの設置	下水道利用型災害用トイレの設置箇所の延べ数	( 平成19 ) 年度に	( 50箇所 ) の水準達成				
		( ) 年度に	( ) の水準達成				
成果の達成状況							
	単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考	
事業 成果 指標	目標値 1	箇所	45.00	45.00	45.00	45.00	
	実績 1	箇所	18.00	19.00	19.00	26.00	
	= /	%	40.00	42.22	42.22	57.78	
	目標値 2	箇所	50.00	50.00	50.00	50.00	
	実績 2	箇所	15.00	22.00	30.00	39.00	
	= /	%	30.00	44.00	60.00	78.00	
	目標値 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	実績 3		0.00	0.00	0.00	0.00	
	= /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
事業の実施内容							
平成17年度	運営面の充実 設備面の充実 第二次避難所	避難所運営管理協議会の定例開催と運営マニュアルの見直し 災害用トイレの設置(8箇所・合計30箇所) 災害時要援護者用避難所機能の充実					
平成18年度	運営面の充実 設備面の充実 第二次避難所	避難所運営管理協議会の定例開催と運営マニュアルの見直し 災害用トイレの設置(9カ所・合計39ヶ所) 災害時要援護者用避難所機能の充実					

部名称		区長室		課名称		危機管理課	
		単 位	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	備 考
トータルコスト	事業費	千円	14,885	15,814	16,631	26,450	
	人件費	千円	834	834	0	0	
	事務費	千円	0	0	0	0	
	減価償却費等	千円	0	0	0	0	
	総計 = + + +	千円	15,719	16,648	16,631	26,450	
	受益者負担	千円	0	0	0	0	
	純計 = -	千円	15,719	16,648	16,631	26,450	
	受益者負担率 /	%	0.00	0.00	0.00	0.00	
財源内訳	一般財源 = -	千円	15,719	16,648	16,631	26,450	
	特定財源		0	0	0	0	
	一般財源投入率 /	%	100.00	100.00	100.00	100.00	
職員	常勤職員	人	0.10	0.10	0.00	0.00	
	非常勤職員		0.00	0.00	0.00	0.00	
<b>事業に関する検討課題</b>							
<p>運営面では、避難所運営管理協議会を年1回以上開催することで維持・活性化を図ってきましたが、何年も開催していない避難所運営管理協議会も若干あります。  防災指導員や新たに発足した防災サポーターを通じて防災区民組織などの防災行動力の充実を図りますが、組織の高齢化等により活性化が困難な組織も見受けられます。  備蓄では、校舎内に備蓄倉庫を確保できない避難所があります。</p>							
評価基準に基づく評価と理由 「3.2.1」の3段階評価です。	達成度	2	45避難所運営管理協議会のうち、26協議会が1回以上の会議を行いました。目標である全協議会の開催に徐々に近づいています。備蓄倉庫や災害用トイレの整備などの施設整備面においては、避難所としての機能の充実が達成できました。				
	効率性	3	災害時に地域住民による避難所の自主的運営が行えるよう、避難所利用エリアごとに協議会を設置していることは、避難所のスムーズな立ち上げに効果的であると考えます。				
	実施の成果	3	災害時の避難所運営を行政で行うことには限界もありますが、避難者自らが各班の役割に従って運営することで、効果的な災害対応が可能となります。				
	行政の関与	3	避難所運営管理は協働の視点から区民との役割分担で行う必要があり、その機能充実は区の責務であるため、区の関与は妥当です。				
	妥当性	3	避難所の運営態勢は区民との協働の視点で充実を図っており、また、事業所との連携による地域防災力の向上など、被害軽減に向けた通常時から備えは一定の効果が見込めます。				
	施策寄与度	3	行政のみでは災害対応に限界があることは、阪神・淡路大震災の事例からも明らかです。自助・共助・公助を適切に使い分けた手法は、防災まちづくりの推進に大いに寄与しています。				
総合評価	避難所運営管理協議会の年1回以上の開催については、その目標に向けて徐々に高まっていますが、何年も開催されない協議会については、今後、運営方法等について特別出張所と連携したり、防災指導員を派遣するなど、積極的な働きかけを行っていきます。なお、一部の地域では2つの協議会を合同で開催するなどしました。						B 過年度評価 17年度 B 16年度 B 15年度 14年度
							方向性
改革方針	避難所運営管理協議会を年1回以上開催する協議会は過年度より多くなってきていますが、さらに、災害時の避難所運営を安定したものとするために、年2回開催する地域防災会議で避難所運営管理協議会の必要性を十分に説明したり、防災指導員を派遣するなどして、すべての協議会について年1回以上の定例的な開催を促進し、持続的な活性化を図ります。						2  手段改善